

光明寺だより

第108号
浄土真宗本願寺派
光明寺

〒793-0030 西条市大町550
TEL 0897-53-4583



心に残る詩

目 埼玉 奥富和泉 (77)



時々空に目が現れる
 多くの人は気づかない
 大きすぎたり すぐ
 消えてしまうからだ
 大洋を行く船から
 天井裏の鼠ねずみの振舞ふるまいまで
 一瞬のうちに
 見とおしてしまふ
 よい行いをほめたり不正をただそう
 とするわけではない
 ただ見ているだけだ
 そんな目のあることを
 知っておいたほうがいい



産経新聞「朝の詩」より

私たちのちかい

- 一、自分の殻からに閉じこもることなく
 穏おだやかな顔と優しい言葉を大切にします
 微笑ほほえみかける仏さまのように
- 一、むさぼり いかり おろかさ流されず
 しなやかな心と振る舞いを心がけます
 心安らかな仏さまのように
- 一、自分だけ大事にすることなく
 人と喜びや悲しみを分かち合います
 慈悲じひに満ちた仏さまのように
- 一、生かされていることに気づき
 日々に精一杯せいいつぱいつとめます
 人々の救いに尽くす仏さまのように

一口法話

みてござる



大谷派浄信寺の副住職をされている西畑春江さんという方が致知社出版の雑誌に「みてござる」と題した次のような一文を掲載していました。

・・・・・・・・・・・・・・・・

私は大谷学園という仏教の大学を出ております。当時、佐藤義詮ぎせんという校長先生がおられて、私が大谷にいる間、繰り返し繰り返しおっしゃっていたのが「みてござる」という言葉でした。

佐藤先生は立派なお寺の住職さんで、大阪の知事になられた方ですけれども、ある時大阪・船場せんばの問屋さんにお説教に行かれるんですね。その問屋の玄関に立った時、大きな扁額へんがくがあり、平仮名で「みてござる」と書いてあったらしいのです。上に上がられたら応接間にも「み

てござる」、お手洗いにも「みてござる」、仏間にも「みてござる」の額が飾ってある。

それで、佐藤先生がご主人に「珍しいですね。扁額はよう読まない難しい字が書かれてあるものなのに」とお尋ねになったら、ご主人は次のような話を始められたのだそうです。

その方のお父さんは飛騨高山ひだたかやまのご出身なのですが、小さい時に父親を亡くされて貧乏のどん底でね。お母さんが「どうしてもおまえを養えないから」とおっしゃって、十三歳で大阪に奉公に行かれるのです。いよいよ明日は見知らぬ大阪に出発という日の晩、二人ともなかなか眠れない。お母さんが「じゃあ、お話ししようか」と夜が白むまで子供にお話をされました。

「貧乏でおまえに何もしてあげられなかった。何か餞別せんべつをしたいんだけど、それもできない。物を買うお金もないので、火にも焼けないし水にも流れない言葉をあなたに贈ります」

そう言ってお母さんが平仮名で書いて、少年に手渡されたのが「みてござる」という言葉だったんです。

少年はその言葉を持って大阪に出るのですが、やはり辛い船場でのご奉公があつて、ある時淀川よどがわの堤防を歩きながら「辛いなあ、お母さんが恋しいなあ。この川にはまれば楽になれるのに」と思っていたら、ふと「みてござる」という言葉が頭に浮かんで少年を引き戻すんですね。

それから、先輩からいじめられたり、いろいろ辛い体験をされるのですが、そういう時のお守りが常に「みてござる」だったといえます。

この方はやがて船場に店を張るまでに成功し、七十五歳でお亡くなりになります。

臨終の場に息子たちや番頭さんを集めて「いろいろお世話になりました。私はおかげさまで成功できたと思うけれども、それには、やはり目に見えない私を引っ張ってくれるものがあつた。それが『みてござる』という言葉なんや。どう

か子々孫々に伝えて長くわが家の家宝としてほしい」と言われたというんです。

「見てござる」・・・辛い時も悲しい時も、きつと誰かが見ていて下さる・・・そんな思いをもってこの人生を歩むことが出来れば、これほど力強い人生はありません。少年にとつてそれは「母の眼」であつたでしょう。

旅立つ我が子にこの言葉を贈つたお母さんは、おそらく熱心な念仏者だつたと思います。ご法義の厚い地域（お念仏の教えが根付いている地域）では昔から、「阿弥陀さまは、見てござる 聞いてござる、知つてござる」と、阿弥陀さまのお慈悲を喜んで生きてこられたと聞きまゝ。お母さんの言う「みてござる」は、阿弥陀如来さまのことを指していると思ひます。

親鸞聖人は、『正信念仏偈』に、

煩惱障眼雖不見

大悲無捲常照我

と仰っています。

意識しますと、煩惱にまみれたこの私

の眼には阿弥陀さまの慈悲の光明は見えないけれども、阿弥陀さまはそんな私を見捨てることなく照らし続けて下さっている、讃えておられるのです。

阿弥陀さまに見守られながら歩む人生のありがたさを教えて下さっています。

しかし、この言葉は同時に「誰も見ていなくても私（阿弥陀仏）が見ておるぞ」と頂く時、極めて厳しい戒めを与えて下さいます。

例えば私たちは「よいこと」をした時は、「多くの人に知つてもらいたい」と願ひ、「悪いこと」をした時は、どこまでも隠そうとしますが、そんな私の心を仏さまは「みてござる」です。「周りの目をごまかせても、世間の目をごまかせても、ごまかしのきかない眼がここにありぞ」という厳しいお諭しです。

そのごまかしの聞かない眼（仏の眼）に見抜かれることによつて、私たちは自らのお粗末さが知らされていくのです。その我が身の姿を親鸞聖人は「煩惱具足の凡夫」とか「極重悪人」と仰っています。そうしてさらに大事なことは、そんな愚かな私だからこそ阿弥陀さまは決して見捨てることなく私を守り通して下さつ

ているのだと頂く時、深い慚愧と無上の喜び（歡喜）に包まれた人生が展開していくのです。

「みてござる」・・・お念仏の教えを聞かせてもらう者にとつて大変味わい深い言葉です。



ほっこりする
はなし

本願寺新報に「老いといのちの礎箱」と題したコーナーがあり、そこに、中川真昭氏のエッセーが毎回掲載されております。いつも、「なるほど」と頷きながら読ませてもらっております。十月十日号をご紹介します。

しっかりとしまひよ、お互い

某月某日

「院住さん。思い出しました。おじいちゃん
の年忌があたつてるかどうか、聞こうとして
たんですわ。三十三回忌とちがうかいなあ、
と申しておったんですが・・・」

セツさんが、ほっとした顔でやって来られ
ました。

「きのう帰りましてな、おとうちゃんに、
何しに行ったんか忘れて帰ってきた、と話
しましたら『しっかりとしてくれよ。頼りに
してるんやでえ、情けないのう』と言われ
ましてなほんまに情けないと自分でも思っ

ております。でも院住さん、うちの
おとうちゃんも最近ややこしいんです
わ。先達せんたでも、ちよつと遠くへ買い物
に行くのに、車で送ってもらおうとし
ましたら、運転席でボートとしたはる
んです。そして『どこ行くんやったか
いなあ』とわたしに言わはるんで行き
先を言いましたら『どう行ったらええ
のか、ちとわからん』と言わはるん
です。わたしからだから血の気引きまし
たわ。おとうちゃん、なに言うてるね
ん、と言いましたら『自動車のカギ忘
れた』と言わはるんです。一、二年前か
ら、もう八十五にもなるんやから運転
免許返しなはれと何べんも言うてたん
ですが、そのたんびに『自動車がなかっ
たら、お前を病院へ連れていかれへん、
買い物にも行かれへんやないか』言わ
はるんで、タクシーで行きますという
と『そんなもつたない』と・・・。
でも、もう、やめてもらわんと事故で
も起こしたら大変やと、思うておりま
す。でも足元ふらふらしても、まだま

だ元気やと思うたはりますので、言う
こと聞いてもらうのもなかなかですわ。
夫婦揃うて、仲良う年とつて、仲良う
少しずつぼけて、世間から遠うなつて、
それもよろしいわなあ。院住さんも、
まだ運転してはるんですやろ。ぼちぼ
ち、自分の年、考えんとあきませんで」
「はい」

《著者略歴》

中川真昭

1935年奈良県生まれ。児童文学作家

奈良県橿原市・浄念寺前住



令和4年度行事予定表

日時	行事名	講師
1月16日(水)	正月参拝	
3月15日(金) 午前9時	涅槃会	
8月13日(火) 14日(水)	新盆合同追悼法要	
8月16日(金)	お盆参拝	
9月下旬予定	彼岸会法座	未定
12月上旬予定	報恩講	未定
12月31日(火)	除夜会・元旦会	

★コロナウイルスの感染状況により、行事が中止になる事もあります。

親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要 立教開宗800年



【法要期日】

2023(令和5年)

3月29日～5月21日(5期30日)



まっすぐに
生きてきたのに
腰曲がる

いびきより
静かな方が
気にかかり

遺言書

「すべて妻に」と
妻の文字

あの世では
お友達よと
妻が言い

マイナンバー
ナンマイダーと
聴き違え

『シルバー川柳ベストセレクション』

趣味の広場

俳句を楽しむ(八十七)

森本隆を



コロナウイルス騒動も十一月に入ってから沈静化してきて十一月末の現在では愛媛県でも感染者がゼロの日が続く様になりました。このまま収束に向かって行けば良いな、と思うと同時に、自然界はいよいよ静かな初冬期に入ってきました。畑では冬菜が育ち、家の軒下には柿が干され、一年の終わりへ向かって季節は着実に進んでいます。さて今回は、そんな初冬の一時期に次々と咲いて我々の心を和ませてくれる花に目を向けて詠まれた俳句を幾つか鑑賞してみよう。

まずこの時期の先頭を切って道端や庭に鮮やかで明るい黄色の花を咲かせる石路(ツワブキ)の花の句を見ましよう。

海よりも町のさびしき石路の花 神谷久枝
 飛び石は男の歩幅石路の花 増子 京子
 人住むを大地といえり石路の花 神尾久美子

そもそも石路の花自体が珍しくもない、ありふれた花なので、それを詠んだ俳句もさほど難しい句にはなりませんね。素直にそのまま読めばすぐ景色が浮かび、そろそろ冬だなあと感じます。花の時期もけっこう長く、何より辺りを明るくする、澄み切った黄色には強い季節感が感じますね。

次に山茶花を詠んだ句。

山茶花のここを書斎と定めたり 正岡子規
 山茶花のこぼれつぐなり夜も見ゆ 加藤 楸邨

山茶花や隣人としてわが子住む 石倉啓輔
 初冬の寂しい風景の中にいち早く淡い紅色や白い花が開き、やがて散っていく姿には、さびた印象がありますね。椿のように花一つが散るのではなく花びらがはらはらと散りこぼれる。咲いては散り、散っては咲き、そして冬中いつも咲き続け散り続ける。人々に愛されて庭木に垣根に盆栽にと珍重されています。ここにあげた三句とも心から山茶花を愛しいつくしむ気持ち十分込められていますね。次に、少し地味ですが、枇杷の花の句。

枇杷咲くか裏庭とんと用のなく 大橋敦子
 裏口へ廻る用向き枇杷の花 山崎ひさを
 箒目は人住むあかし枇杷の花 大岳水一路
 元来、果樹として植えられてきたのですが、近頃ではビワは果物としては余り珍重されていないようで、カラスに実をつつかれ放題の木をよく見ます。ただその花は概して慎ましく地味で、寂しい、ひっそりとしたという感じでこの初冬の時期にふさわしく、景に似合う花と言えます。

最後に、この時期に特有の現象としての花、つまり、一つの名前を持った何々の花という訳ではない花として、帰りに花(返り花)をあげておきます。冬の初め、小春日和(ひより)の暖かい日が何日か続くと、桜やツツジ、桃、山吹、藤などが花を咲かせるのを見かけるこ

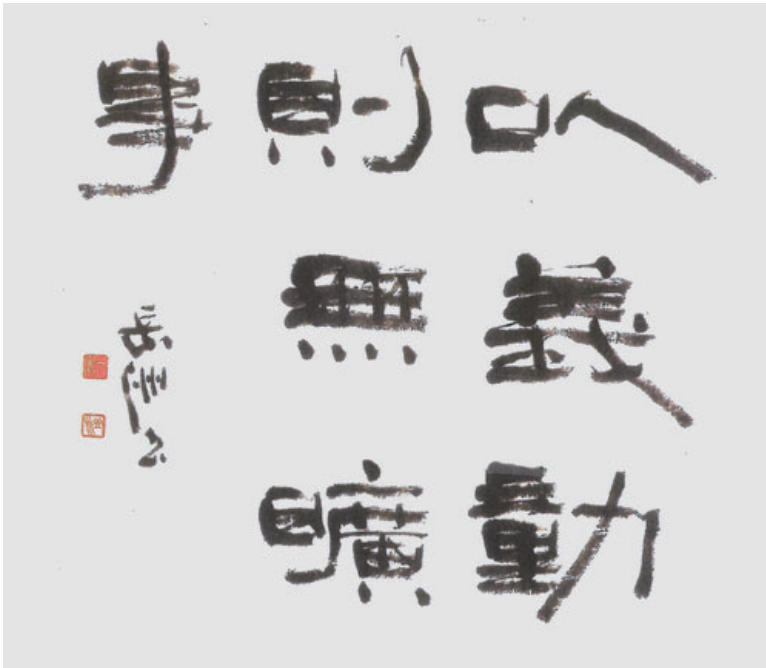
とがあります。この時期はずれの花を帰り花と言います。初冬の季語にもなっています。

返り花咲けば小さな山のこえ 飯田 龍太
 仰ぎたる所にありし返り花 清崎 敏郎
 人の世に花を絶やさず返り花 鷹羽 狩行
 約束のごとくに二つ返り花 倉田 紘文
 小春日和に誘われて、思い出したようにほつと咲いた、少し小ぶりな返り花に思わず心ひかれて詠まれた四句です。

他にこの時期に咲く花の代表的なものとして、冬菊、寒梅、八手、桜、そして茶の花などがあり、いずれも目立たずひっそりと、という感じが共通しています。しみじみとしたその咲きぶりをよく味わって見て下さい。



位職書作品



【語句】以義動則無曠事

【読み方】義をもって動けば、曠事なし

【意味】正しい道理に従って事を行えば何事も成功する

(呂氏春秋・無義篇)

BOOK 本

『一日一話読めば心が熱くなる』

365人の仕事の教科書



発行所 致知出版社
監修者 藤尾秀昭
定 価 2350円 + 税

本書の出版社「致知社」は昭和五十三年の創刊以来、人間学をテーマにした月刊誌を発行していますが、今回四十二年の歴史を振り返り、これまで紹介してきた人物の中から365人を選び、一人一ページの編集仕立てで一冊の本にまとめたものです。仕事にも人生にも真剣に生きてきた人々が語る言葉は読む者の心に深く響くものがあります。

登場人物は稲盛和夫・王貞治・山中伸弥・平尾誠二・道場六三郎・安藤忠雄・東井義雄・曾野綾子・日野原重明等々、各界各様、多士済々の顔ぶれです。まさに読めば心が熱くなる人生の教科書です。

令和4年度年忌早見表

該当のお家には年忌通知表をお配りしていますが、念のため早見表を参考にご自宅の過去帳でご確認ください。

回数	死亡の年号
1周忌	令和 3年
3回忌	令和 2年
7回忌	平成28年
13回忌	平成22年
17回忌	平成18年
25回忌	平成10年
33回忌	平成 2年
50回忌	昭和48年
66回忌	昭和32年
100回忌	大正12年
150回忌	明治 6年
200回忌	文政 6年
250回忌	安永 2年
300回忌	享保 8年

光明寺のホームページ

南岳山光明寺

検索



言葉のプレゼント

言っていることではなく
やっていることがその人の正体



★次回発行予定…2月中旬

「光明寺だより」を「ご家族の皆さんで
お読みください」



★11月12日、某自動車メーカーの新型車のコマーシャル撮影が光明寺で行われました。人目に触れないようにと物々しい警戒の中、撮影が行われました。発表は来年2月、広く国内外に宣伝されるそうです。

★コロナウイルスが収まりかけてきたと思っていましたら変異株（オミクロン株）が発生し、国内での感染者も確認されました。年末年始、感染拡大しないことを願うばかりです。

★昨年十月のがん手術後、住職の体調は順調に回復しており、現在は月一度、愛大附属病院で経過観察を受けております。

★住職の子供たちもそれぞれ順調に育っています。長女の心は学年別（2年生）の持久走で6位になりました。次女（美乃莉）は幼稚園の年長さん。長男（光）は7月で満3歳になり、次女と一緒に幼稚園に通っています。

